

第7回 浜松市未来デザイン会議 議事録

平成26年10月25日（土）午後3時00～4時45分

浜松市役所本館8階 全員協議会室

1 開 会

(事務局)

只今から、第7回浜松市未来デザイン会議を開会します。会議の進行は、会議のコーディネーター役をお願いしております、静岡文化芸術大学根本学部長にお願いします。よろしくお願いします。

2 策定スケジュールについて

(根本学部長)

コーディネーターを仰せつかっております文芸大学の根本です。本日もよろしくお願いします。それでは第7回浜松市未来デザイン会議を始めます。約1年余りにわたり、この会議を皆さんと一緒に進めてきて、パブリック・コメント等を経て、いよいよ最終回ということになりました。1ダースの未来の姿については文言を随分丁寧に見たと思えますけれども、この後、正式な議案として市議会において審議されるという段取りになります。本日はその私ども市民のメンバーで練り上げた案を、いよいよオフィシャルな審議に諮るといふ最終段階の調整の場になります。それでは次第をご覧ください。最初にスケジュールの確認を事務局からお願いします。

(事務局)

資料2説明

3 パブリック・コメント等の結果報告について

(根本学部長)

ありがとうございます。ご案内の通り、前回から今日の会議の間にパブリック・コメントの期間を挟み、併せて区の協議会にも諮って色々なご意見をいただいています。パブリック・コメントの結果につきまして、参考資料1と参考資料2を使って事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(参考資料1及び参考資料2説明)

(根本学部長)

ありがとうございます。参考資料1と参考資料2のパブリック・コメントならびにそのなかから今回のビジョンに反映した部分、それから各区の協議会との諮問答申の様子を報告していただきました。市民の皆さんから多様なご意見が寄せられています。委員の皆さんから只今の内容につきまして、ご質問・ご意見等いかがでしょうか。何かコメントでもよろしいかと思えます。

(酒井委員)

パブリック・コメントの方で、1ページの全体というところの提案1で、計画を一読し、基本構想に描かれている浜松市の未来ビジョンは素晴らしい。3回ぐらいは取り上げて、児童に学習させてほしいとか、子ども用のパンフレットの作成を検討してほしいと書いてありますが、市の考え方として、「参考にします」と書いてありますが、結局やるのかやらないのかがはっきりしませんが、どちらなのかを教えていただけたらと思います。

(事務局)

これについては来年度の予算ということもありますので、少し曖昧だと

感じられたと思いますが、しっかりとやっていきたいと思います。形は別としてしっかりと周知できるようにやっていきたいと思います。

(酒井委員) ここに書かれているのは特に子どもたちに知ってもらいたいと書いてあって、なかなか市のマニフェストであっても授業で取り上げられるのは珍しいと思いますが、そういうことをやられるということによろしいでしょうか。

(事務局) 手法については現実的に学校のカリキュラムに入れるかどうかは別ですが、例えば市の方では出前講座という形を取りながらやったり、こちら側から逆に積極的にそういった講座をやらせてもらえないかというような投げかけをしたり、今後しっかりと検討させていただきたいと思います。

(酒井委員) これは意見ですが、子どもたちにこういうことをやってほしいという意見があることは非常に嬉しいことですし、市政に関して関心を持ってくれる子どもたちが増えてくれるのは嬉しいことです。なかなかない機会だと思いますので、ちょうど30年後の責任世代になる子どもたちに分かりやすいものになったら良いと思いますので意見を言わせていただきました。よろしくお願いします。

(鈴木市長) 大事な点ですね。

(根本学部長) どうですか、委員の皆さんから子どもたちにこういうことを教材として普及させるのに、こんなやり方かどうかという提案とかありますか。市としては予算を組んで検討しますという言い方しかできないかもしれませんが、どうせやるならこういうやり方が良い、とか私のところではこういうやり方をやっていますよ、というような良いやり方はないですか。

(田中委員) 突然で難しいと思いますが、要するに何か絞らないと漠然としてきれいごとで終わる可能性がある。例えば自然、動物、環境、何か絞ってやらないといけないでしょう。先程から行政は予算がどうこうと言っていますが、予算を有効に使うには、第1には何に絞っていくか、第2にはどうするかというのを具体的に出していけば活かされると思います。ついでですが、行政に協力している各区の協議会が賛成していただいたというのが非常にありがたいと思っています。色々なコメントが出ていますけれども、この場にいる場合とそうでない場合と温度差があるのではないかと思います。これはやむを得ないと思います。いずれにしても7つの協議会がそれぞれ賛成していただいたことは非常に嬉しいことだと思っています。

(根本学部長) ありがとうございます。

(村田昌委員) 子どもたちにどう伝えるかということですが、まとめられた文章を子どもに分かるように平易な言葉でパンフレットをつくって配るというのは余り有効ではない上位に位置する方法だと思います。それよりも今回まとめられた企画課の皆さんが小学校や中学校に出かけて行って、この未来デザイン会議の話をするとか、生で今まで会ったこともない大人の人が学校の教室に来て、リアルな自分の仕事を話すというような、そんなことをされ

た方が、子どもたちの心に響く、小学生は小学生なりに、中学生は中学生なりに、高校生だったら、じゃあ市役所を受けてみようとなるような、策定に関わった人たちが話すというのが効果的であると思いました。

(須藤委員)

私も同じように思いますが、教員の皆さんにこれを理解してもらって、先生の口から説明するというのは伝わらない可能性が大きいですし、教員の皆さんにも余分な手間をとらせてしまうということがあるので、直接伝えてもらうのもそうですが、子どもたちに対しては、大人が一方的に伝えるというよりは、皆は30年後何をしているんだろうか、子どもたちから意見を引き出しながら、それがこの計画のこの部分で合致するところがありますというような話の持っていく方ができれば子どもたちの心にも入りやすいのかなと思いました。

(松尾委員)

是非三つ子の魂百までではないですが、小さいうちに頭のなかに入れていただくと、そのまま持ち上がって行きやすいのかなと思います。是非遊びのなかで伝えていく、例としては幼稚園や低学年だったら、かるたみたいなものをつくってもらって、そのなかで頭に入れてもらうとか、歌なんかは難しいかもしれませんが、少し遊びのなかで小さいうちに浸透させることができれば長く持つのかなと思います。

(根本学部長)

かるたって言おうかなと思っていたところで、すかさず提案していただきました。1ダースのなかの12かける幾つかでかるたをつくって、要は双方向コミュニケーション、一方的にさあ読めとか聞けというのではない手法があると思います。ではそれ以外の話題でいかがでしょうか。

(外山委員)

今の話題に付け加えたいのですが、文章がとても多いので多分子どもたちにとっては社会科の歴史みたいな、非常に退屈な授業になりそうなので、特に未来を描く、頭に描くということがすごく大事だと思うので、子どもたち自身にこのことを絵にしてもらおうとか、この未来ってどういう未来だと思うって投げかけをして、子どもたち一人ひとりがキャンバスにこの未来を描いてもらう。幾つかあるなかで今回は一つを取り上げて、例えばクリエイティブシティってどういうことだと思う？ということで、先生がこの文章を咀嚼してあげて、そのなかで子どもたちが自由に発想する。浜松の30年後ってどうなっているのだろうと子どもたちが考える。正解かどうかは別にして、それを考える行為と頭に描くということがきっかけになってくれると良いと思います。

(根本学部長)

ありがとうございます。あと一つくらいコメント、提案をどうぞ。

(村田亜委員)

子ども関連で、今、学校のなかということで話が出ていたと思いますが、浜松市のなかには子どもが参加できるような科学館や楽器博物館や色々な施設があるので、例えば先ほど田中委員が分野ごとということをおっしゃっていましたが、学校以外の施設を使うことによってよりテーマに合ったものを選んで、例えば自分は音楽が好きだから音楽に関わる浜松を知りたい、考えたいとか、モノづくりに関わることに興味があるから、そういう方面の浜松市を考えたいとかという子どもたちが具体的に選択することがとても大切だと思います。またそこには必ずスペシャリストがいる

と思うので、学校の先生だけではなく、そういう大人たちが関わるという考え方があっても良いのかなと思います。

(根本学部長) ありがとうございます。ではパブリック・コメントと区の協議会の件は大体よろしいでしょうか。非常に素晴らしいご提案をいただいていると思いますので、きっちりこれは議事録に残して今後の普及活動に行政の方で活かしていただきたいと思います。

続きまして次第4、未来ビジョン（基本構想）の最終案と、次第5の第1次推進プラン（基本計画）最終案について、資料3と資料4を使いまして事務局から説明をお願いいたします。

4 未来ビジョン（基本構想）最終案について

5 第1次推進プラン（基本計画）最終案について

(事務局) 資料3及び資料4説明

(根本学部長) はいありがとうございます。パブリック・コメントならびに各区の協議会の意見等を踏まえて修正部分を中心に説明をいただきました。これから最終段階に参りましたビジョンの構想と基本計画について意見をいただきますが、もうこれで最終段階となります。意見を持ち帰ってということでもないですし、相当程度中身を集約・収斂してきたかと思しますので、ここはお願いですが具体的に何ページのどこの記述をこう直したらどうかというご指摘と、その他は自由にコメントなりご意見なりを分けてご発言いただければと思います。具体的な訂正箇所についてはできればこの会議のなかで合意をつくって、じゃあこの記述はこういうふうにしましょうと決められるようにしたいと思っております。ご協力をお願いします。いかがでしょうか。ご自由にご発言ください。

(酒井委員)

浜松市未来ビジョン第1次推進プランの1ページ目、1ダースの未来という表現が分かりにくいというか、「(理想の姿)」という形で市の方で付け加えていただいたんですけども、もし良ければ私としては理想の姿とカッコ書きで書くよりは、欄外に注釈でもう少し丁寧に説明を入れるような形の方が結果的に分かりよいのかと思いましたので、結構ここはこだわりがある部分というか、インパクトがある部分ではあると思うので、だったら理想の姿と書いてしまえば良いだろうと思われてもよくないと思いますので、ここは説明を入れるという形に変えていただきたいなと感じました。もう一点ですが、これは言うべきかどうか悩むところですが、未来ビジョン（案）の10ページに、これはどういった意見が出てこう書き換えられたかを聞き逃してしまいました。が、「はぐくむ」のなかで「勤め先では男女を問わず育児休暇の取得は当たり前になっており」とあるのですが、本当に男女を問わず育児休暇の取得が当たり前になっているのかなという疑問を感じている、私自身も育児休暇を取ったかなと思ってしまう部分があって、理想はこうですし、こうでないといけないと思いますが、現実問題としてこうなっているのかなというのを市民の皆さんも疑問に感じるのではないかなと思うので、どういう表記が良いかというのは言いづらいところですが、女性が取れば男性は取らないとか、男性が取れば女性は取らないというふうになると思うので、「男女を問わず」を外したらどうかと思いますが、いかがでしょうか。言いづらい部分ではあるのですが。

- (根本学部長) はい、1点目ですけれども、カッコ書きで付けるのではなく、むしろ注釈で言葉を添えたらいかかというご提案です。確かに理想の姿で良いじゃないかというツッコミが入ると苦しいなと思いますが、委員の皆さんから何かこの点につきましてご意見ございますか。
- (松尾委員) 今の理想の姿ですが、すぐ前のところに「一世代先を未来の理想の姿として」という言葉があって、またここに理想の姿を付けるのは書き方としてはおかしいなと感じています。
- (根本学部長) ここは結構練り上げた文章なので後で足すと余計おかしなことになるかもしれないですね。もしご異論がなければこれは注釈を付けるということにしましょう。では2点目の方です。理想の姿ですから大丈夫かなと思いますが、何かご意見ありますか。
- (村田亜委員) 私が一番関わっていきそうだったので個人の意見ですけれど、育児休暇という形が30年後に国の政策などで変わっているか疑問に思っています。今、北欧などでは男女一緒に育児休暇を取る国があったりして、お母さんが取るから男性は取らなくても良いという制度ではないかもしれないかなと思うと、育児休暇の制度自体が変わっているかもしれないので、理想として男女を問わずと書いても良いというか、理想なので良いかなと思うので、その解釈をもう少し幅広く取れる表記の方が良いかもしれないと思います。
- (河原委員) 育児休暇は女性を取るものというような観念がどちらかと言えばあるし、あったと思います。男女を問わずということだと、やはり男性も、取っちゃいけないような感覚が多少あったと思います。けど男性も取ってお互いに協力をしなければいけないという、そういう意味が含まれて良いと思います。以前に内閣府の男女共同参画の関連部署で男性が育児休暇を取った例を聞いたことがあります。取って見たら育児の楽しみ、家事をする大変さなど、色々なことが分かったから男性も積極的に育児休暇を取得できるようなシステムを皆が認めないと、取ったことによって、その後自分の帰る場がなかったとか、昇進に影響が出たとかいうことがあってはいけません。だから男女共同参画のことを考えている者としては、男女を問わずと入れていた方が良いと思います。
- (須藤委員) 私も同じように考えています。それこそ男女を問わずというよりは男性の育児休暇の取得も進みというようなことの方がより積極的で良いかと思うくらいなので、男女を問わずというのをに入れていただいて、そうすると皆さんも育児休暇のあり方を考えるきっかけになるかと思います。入れておいていただきたいと思います。
- (杉山委員) 育児休暇の制度もイマイチよくは分かっていないのですが、育児休暇を両親だけではなくて、おじいちゃん、おばあちゃんや兄弟も取って良いという制度に理想としてなっているとしたら、男女問わずではなくだれでも育児休暇の取得が当たり前という表記にしたら、理想に近いかなと思いました。

(松尾委員) それを取ることによって障害が起こるとというのが一番問題だと思いません。「男女を問わず」も良いと思いますが、もし何か別の言葉に変えるのであれば、「だれでも」というと語弊があるので、「希望する者が」とか、そういう表現なのかなと思って聞いておりました。

(根本学部長) 決を採るということではないと思うのですが、コーディネーター役の案としてお示ししたいと思えます。ここは男女を問わずという原案でいきたいと思えますが、皆さん仰っていただいたことはおそらく大きな反論はないと思えます。休暇という言葉遣い自体、将来制度の名称が変わるかもしれないし、それから、希望する者は「だれでも」という主旨であるということは皆さん合意できることだと思えます。ただその上でやはり現状を見ると、男性のそういった、イクメンという言葉がありますけれども、そういった活躍が十分ではないという問題意識を明確にするという意味でも、男女という記述を残した方がいいかなと思えますがよろしいでしょうか。ここにはもう書き込みませんが、皆さんの思いとしては30年後ということと根本的に制度が変わっているかもしれないという問いかけがあったのかなと思えます。他にいかがでしょうか。

(村田昌委員) 第1次推進プランの④環境・エネルギー、21ページからの部分ですが、以前、松尾先生もご意見を出されたと思えますが、再生可能エネルギー、イコール電気という表記が、今回だけでなく日本中そういうところが多くて、熱利用だとか他の方法もあるという話があったと思えますが、今回もやはり見てみても、例えば「さらに、地域産業の活性化に向け、発電・省エネルギー・電力供給」という言葉になっています。基本政策の一番目、太陽光発電やバイオマス発電、再生可能エネルギーやガスコージェネレーション等の自家発電、とやはりここも発電を前提に書かれています。もちろん電気はありますが、再生可能エネルギーイコール電気ではなくて、熱利用だったり、水車だったり、風車だったりの動力も元々使っていました。これが今の時点でどんな技術があるかわからないですけれども 全て電気ではなくて30年後には水力の動力があるのか、以前、意見交換会でのディスカッションのなかでも水力で車が走るみたいな話をだれかがされていたこともあったんですけど、どこかにこの電気以外にも熱利用とか動力利用を入れておいた方が良さそうかなと思えました。

(根本学部長) 今のエネルギーの部分について、何か他にご意見ございますか。おそらく全く記述が欠落しているというレベルではないと思えます。どうしても記述している我々の頭のなかで、電力というのが安定していて重要なエネルギーだという思い込みがあるので、文章の書き方がこういうことになっていると思えます。ですから細かく見ればコージェネレーションと言っているから、熱も出しているじゃないかということがありますが、書き方の問題ですね。もしよろしければこの点も含めて幾つか言葉としてのご指摘については記述の趣旨が変わらない範囲において、大変僭越ですが、コーディネーターに作文を一任していただければと思えます。よろしいでしょうか。書き方の修正を加えてみたいと思えます。

(異議なし)

他にいかがでしょうか。

(河原委員)

ノーベル賞受賞者が浜松から出たということで沸きに沸いたのですが、ある有名な数学者が、輩出する国にはある程度生み出す条件があるという話を読みました。小さい時から成長する過程で、美しいものを見ることができる国、豊かな自然や優れた芸術、そういうものに触れて、美的感覚などを養うことが、数学や物理学分野にとって大変貢献しているそうです。それから営利や実用だけの追求だけではなく、役に立たない無駄なことだと思っても続けていくという精神性の高いものに敬意を払う、そういう土壌が大切で、その2つがとても大事なことだと書いてあるのを読みました。未来ビジョンの2ページ、3ページには「新しさを生む伝統を未来へつなぐ【人づくり】」それから「感動をつくる」というのがありますけれども、これはそのとおりかなと思いつつ、浜松というのは経済も歴史的なものもありますが、経済界はもちろん、文化の醸成となる文学、音楽、絵画などの分野で浜松の先駆者が残したものと、その偉業のわかるもの、そういうものをしっかり継承していかなければいけないと考えました。役に立たないから壊すとか、失くすという前に本当にそれで良いかということをも市民とともに考えていくということで、またそのものが感動を呼ぶのなら次の代にも感動を呼ぶに違いない、ということで持っていくことが必要ではないかなと思いました。例えば壊すものを半分にして合体させるとか、管理は高齢者が増えていくからボランティアや市民団体に管理してもらおうとか、活用は地域の活性化と同時に小学生や中学生が浜松の歴史や浜松をつくり上げた人たちのところを回るような体験学習的なものも次の世代にとっても良い効果を生むのではないかと考えます。市の財源と、残さなければいけないものと、残さずに壊していかなければいけないものとか、その検証をしっかりとしていくことが必要なのではないかと、この新しさを生む伝統を未来へつなぐというところで感じていました。

(根本学部長)

コメントプラス今後これを具体的な計画事業化していくなかで、文言を変えるということではなくて、今仰っていただいたような提案を含めた展開に結び付けていきましょう、というご提案という受け止めでよろしいですか。

(河原委員)

区協議会からの要望のなかに、30年後の未来を見ているけれど30年前に計画したものが実現していないというものが多くあるのではないかと指摘があって、すごく厳しいものだなと感じました。そういうことから考えて、30年後をと考えた時に歴史的なものが今後の30年後に大きな力となるというようなことを感じたものですから、これから計画を10年毎にやっていく場合でも、そこを考えていただきたいということです。

(根本学部長)

今後これが5年10年計画で進行していく訳ですから、今ご指摘いただいた点が3つあったと思います。感動という言葉を使っていますが、まさに浜松市は創造都市という政策を掲げていますし、どれくらい市民が一生の間にその地に住んで、感動をすることができるか、それはアートの分野にも、サイエンスの分野にもあるでしょう。それは書いてはありますが、それを実現に向けてということですね。それから2点目は、にわかになんか役に立つかどうかわからないけれども、目の前のことで判断して排除するのではなく、インクルージョン（包摂的な）社会をつくりましょう、という辺り

で多分理念は述べていると思います。おっしゃるように具体的にどうい
う計画・スケジュールで実現するのか。それから3点目がビジョンの2ペー
ジにあります、この市の持っている優れた過去の偉業であるとか、記憶をき
ちんと繋いでいく。ですからご指摘いただいたことはこのなかに書かれて
いるとは思いますが、最後におっしゃっていただいたように事業展開レベ
ルでそれがきちんと実現できるようにというごしてきですね。よろしいで
しょうか。

(松本委員)

今、河原委員から、30年前に計画したものが実際はなかなか実現されて
いないということがありました。今回、立派なものができましたが、これ
が実行されるようにしなければいけないと思っています。私はこれまでこ
の委員会に似たような委員会を2回経験したことがあります。1つは平成15
年の「静岡県森づくり百年の計委員会」の委員として出ました。この委員
会では県民税納入者一人当たり400円というのを提案したこともありまし
て、平成23年に更に5年間の延長をされ、成功した例だと思っています。
それからもう一つは、浜松市が市町村合併を行い、北遠の森林が浜松市に
編入されたことが契機となりまして、平成18年に設置された「浜松森林林
業ビジョン委員会」の委員として出席しました。この委員会のなかでは、
これを成功させるために何かが必要だなという意見が出されましたが、具
体的なものは定められませんでした。その結果かどうかは知りませんが、
数年して浜松市は当時あった森林課を廃止してしまいました。我々北遠に
住んでいる者は、この委員会を成功したとは捉えておりません。話は変わ
りますが、今年には新幹線が開通して50年になります。国家レベルでやっ
て成功したことですが、成功に大きく貢献した施策として次のものがありま
す。それは時の大蔵大臣佐藤栄作、後の総理大臣が、時の国鉄総裁に授け
たものですが、それは新幹線建設事業というものは政府が変わっても途中
で挫折することなく、継続して進めることができるように、政府に外から
しほりかけるといいと、佐藤栄作が国鉄総裁に助言しました。そのため
の方策として、佐藤栄作さんは建設費の一部を世界銀行から借りたら良
いという案を出す訳です。世界銀行からの借入金はその当時の国鉄の新幹
線予算の10%にも満たない少ないものでしたが、これにより新幹線の計画
というのは政府が変わっても継続して進めることができたということです。
それで私が考えるのは、やはりビジョンというのは、その名の通りビジ
ョンに終わる危険性がいつもあると思います。今回のものは第1次推進
プランを定めて、核となる戦略計画を毎年作成し、進捗管理をすることを考
えておりますので心配はないと思いますが、トップが変わったりして、計
画が後退したり、骨抜きになったりする心配はあると思います。これを防
止するための何らかの縛り、それが難しいならばこの計画を進めていくた
めの憲法みたいなものを盛り込む必要があると私は思うのですが、皆さん
の意見をお聞きしたいと思います。

(根本学部長)

かなり根本的な問いかけかと思いますがいかがでしょうか。

(村田亜委員)

以前この会議のなかでも、ここで作ったもので終わりだと委員として
ちょっと無責任だ、という話が出ていたと思います。私が聞き逃していた
のかも知れませんが、それに対して市としては、このビジョンを推進して
いくのに深く関わりながら市民が参加できるというような考えはありま
すか。

(根本学部長) 2番目の質問で事務局から何かありますか。

(事務局) デザイン会議のなかで過去にもそういったお話があり、やはり10年間の計画期間でやっていくなかでは途中の検証が必要だというお話がありました。そういった検証の部分でどういったことができるかを検討して参りますとお答えしておりますので、何らかの検証をする方法論を考えていきたいと思っています。

(根本学部長) 私はコーディネーターという立場ですが、一委員として、それから政策科学を研究している者として、簡単にコメントを申し上げます。1つ確認しておかなければいけないのは、これは、30年計画ではないということです。ですから今の限られた人数で限られた知見で長期の計画を立てたとしても、色々ご指摘があったように、これは実現できなかったとかできたとか、という白星黒星になるというものではありません。そういう考え方もありますが、むしろ今回我々が12の未来の理想を考えたという意味は、何か積み上げて計画して達成したという達成度ではなく、こうあったら良いなという市民の生活があり、それを確認して、そこに至る法律や条例という手法は様々だと思います。違うルートを通るかもしれないけれども結果として市民、企業の在り様がこういう姿で実現していることを目指そうというやり方だと思います。後半の話は、きちんと継承されて、曖昧にならないようにする必要があるということです。それもいくつかやり方があると思います。1つは憲法のような不可侵の大原則を掲げるというやり方もあります。あるいはもう1つご提案がありましたように、市民が参画して常に見守り、チェックを重ねていく、色んなやり方があります。国によってやり方の癖があって違います。憲法方式、或いは市民目線のチェックを継続的にということで、どちらが良い悪いではなく、ここから先は一委員としての私の意見ですが、憲法方式もあるのですが、これはなかなかすぐにつくれない。もっと多くの人々の知恵を集めて慎重に丁寧に合意をつくっていけばそういうこともできると思います。大事なご提案と受け止めて、これが30年にわたって市の指針として掲げていけるような、皆の合意できるものをつくってはいかがかという提案と受け止めたいと思います。この段階で私どもが合意できるとすれば、継続的に市民の皆さんの目を通して、或いは客観的な評価、チェック（PDCA）を重ねていくことによって、掲げた将来像に至るルートがブレないようにするというのを皆で確認するというをご提案したいと思いますがいかがでしょうか。

(鈴木市長) 大事なポイントだと思います。根本先生がおっしゃられたように、2つのチェックが考えられます。1つは常に市民の皆さんに参画していただいて、進捗状況をチェックしていただくということです。もう1つ大事なのは議会です。これはチェック機関です。我々行政がやることについては基本的に議会の承認が必要です。この総合計画も最終的には議会の議決案件です。議会でご審議いただき、議決していただく。そうするとこれを大幅に変更するということだと、これもまた議会の議決が必要です。そういった意味で市民の目線によるチェックと、チェック機関としての議会、この2つのチェックをクリアしないとイケないということで、実効性は相当程度担保されるということです。例えば首長が変わり、こんなもん知らんと無視することはなかなかできません。民主主義のルールに則って推進さ

れていますので、そういうことにはならないと考えています。

(根本学部長) どうもありがとうございます。では他のご意見がありましたらどうぞ。

(前田委員) 松本委員や村田委員のおっしゃるのはもっともだと思います。私も未来ビジョン4ページ中段「森の恵み」×「デザイン」×「循環」ということで、これをざっと読むと前々から指摘されている方が多いと思いますが、では誰がやるのという話になると思います。折角自ら関わってつくったものなので、もう少し能動的にデザイン会議で決定したものを実現に向けて動き出したいなと思い、現段階でNPO法人をつかって、この山に関する決定事項をもっと能動的に推進していこうかなと思っています。市の方々もご協力をよろしくお願いします。それで文言に関してですが、同じ未来ビジョン3ページ、一度訂正されてそれをまた突っ込んで申し訳ないですが、森林での間伐、一番下の欄です。訂正が入っていますが、農作物の収穫とそば打ち体験とを森林での間伐と同列に並べるのは危険かなと思います。そばを打つのも同じ感覚で間伐体験が浜松でできるの、という方もいらっしゃると思います。浜松が森林体験として間伐を謳うというのには危険があると思うので、もう少しやわらかい表現に変えた方が良いと思います。ついでですが、次のページ中段、「森の恵み」×「デザイン」×「循環」のところですが、これを大きく分けると5つ位の基本計画に分けられると思います。まず天竜材のブランディングと6次産業化、バイオマス利用、地産地消までは基本政策に盛り込まれていると思いますが、最後の「子どもの頃から森林へ足を運ぶことによって」というところは、多分環境教育だと思いますが、環境教育に関する基本政策というのが、すべて目を通していないので確認していませんが、どこかに盛り込まれていないようでしたら、環境教育の推進を盛り込んでいただきたいと思います。

(根本学部長) 3ページの文言のところ、この段落は林業そのものを言っているのではないですね。都市農村交流、体験型観光という言葉を使っているのですが、もう少しやわらかい表現ができないかということですね。もし何かご提案があったらこの場でなくてもよろしいのでお願いします。

(前田委員) 体験型となっているので、森林体験とかだと文脈がおかしくなるし、また思いついたらお知らせします。

(根本学部長) 先程お願いしたように趣旨が変わらない範囲内の言葉遣いの修文はお任せいただきたいと思います。手直しをして議会に提出するという段取りにしたいと思います。もう1つ、環境教育というご提案がありました。これは2つ対処方法があるかと思います。1つはいくつも出ておまして、また各区の協議会でも出ておりましたが、地元の地面に足の着いたご意見になればなるほど、具体的な要望とか提案になってくる。これもどういうやり方があるかを30年間分、すべてきっちりと今、決めるわけにはいかないけれども、5年10年と管理進行していくなかで、環境教育という考え方ができれば良いというのが1つ、もう1つの推進プランの方に多分入っていると記憶しています。22ページですか、それでカバーできていれば良いと思います。ここではエネルギーとかのところですが、そういった森林を持つ市としての市民と北部地域との交流、これは環境教育よりも環境学習という言い方をします。2点目についても入っていると思いますが、確認した

上で整理したいと思います。

(村田亜委員) 未来ビジョンの12ページ、働くというところです。働くことにチャレンジに「新たに起業する人も増えています」ということで起業の支援について書いてあります。働くことをサポートというなかには、企業で働くことを選んだ人のサポートが中心に書かれている気がして、起業って今ブームで創業の支援も出ているので、起業する支援は充実してきているのではないかなと思いますが、起業した後に、特に女性などは続けられないとか収入になる程の働き方ができないという課題があります。「働くことをサポート」のなかに、起業した後の支援ということがあると良いと思いました。

(根本学部長) ありがとうございます。ビジョンの12ページのところ、ご指摘の内容については皆さん納得できるお話だったと思いますので、今ちょっと考えたのですが、具体的に、働くことにチャレンジの最後「新たに起業する人も増えています」という記述なので、起業することには触れていますが、起業した後ちゃんとできるかという記述にはなっていません。提案ですが、「新たに起業して活躍する人も増えています」としたらいかがかと思えます。つまり起業した後も活躍できているということはその事業が継続しているということですから、起業して終わりではない。サポートの中身がどうかというのは、具体の計画のなかで記述していくということで、30年後の姿というのは、起業して活躍する人、その姿が実現するよという記述にしたらどうかと思いますがいかがでしょうか。

(異議なし)

具体的に計画はこちらの基本計画の方で起業後についてもサポートが得られるように繋げていくとして。後はいかがでしょうか。

(酒井委員) 2016年にサミットをとということで浜松市を含めて静岡県で動いているかと思いますが、どちらの総合計画にもサミットという言葉が出ていないのはさみしい気がします。というのはサミットをやると何がすごいかというと、浜松市を世界に発信していけることが一番大きいと思います。産業経済と地方自治・都市経営というところで、言葉としてサミットという言葉を書いて、具体的に示した方が私としては良いと思いますが、いかがでしょうか。

(根本学部長) 事務局いかがですか。入れるとしたらどの辺ですか。

(事務局) 基本計画のなかには記述していませんが、一年毎の戦略計画をつくっていくなかでご指摘の部分については方針のなかで盛り込んでいます。ここでの部分には入っていませんが、一年毎の計画のなかに入れてあります。

(酒井委員) より具体的な目標のなかに入っているのであれば良いかと思えます。

(根本学部長) あと1つか2つくらいいかがでしょうか。

(杉山委員)

冊子のデザイン的な意見ですが、未来ビジョンを冊子にまとめて配布する時に、余白に家康くんのイラストが沢山入っているとか、1ダースの未来のサブタイトルを家康くんのセリフにするとか、ビジュアル的なタイトルにすると、見た人が見分けやすいかなという個人的な意見です。

6 その他

(根本学部長)

後はよろしいでしょうか。ではいったんここで論点を確認しておきたいと思います。具体的な文言の修正提案がありました。この会議としては合意できることだと思います。1つか2つくらいの言葉の言い回しについてはコーディネーターにお任せいただきたいとお願いしました。それからもう1つの論点は実施段階において、具体的な1年計画が付きますので、折角このテーブルでご提案いただいたことはきちんとより短期の計画のなかで取り組んでいただきたいという要望です。3点目の論点としては、この後世に出ていく時には子どもたちにどのように共有してもらうか、一方的にこれを情報として投げるのではなく、工夫の提案がありました。それから家康くんを使うというようなビジュアルな分かりやすい情報発信の工夫をしてほしい、その辺りがあったと思います。

それでは最後に次第にその他というのがあります。一年余りにわたって私たちは作業を進めて参りました。最終段階でご発言いただいておりますが、改めてご出席の皆さんから、一言ずつこれまでの感想なり、コメントを簡単に頂戴できればと思います。長澤委員から順番にお願いします。

(長澤委員)

参加させていただいて30年後を考えるという貴重な機会をいただきました。私としてはこの思いを持つ方々と共有することで実現に少しでも近づけるのではないかと思います。ありがとうございます。

(鈴木委員)

お世話になりました。今、50歳なので30年後は80歳になります。何とか生きていたらいいなと思いながら、30年後にそういえば50歳くらいの時にこういう会議をやったな、将来これに近づいていたらいいなと振り返ることができれば良いと思っています。折角デザイン会議という形なので、文字ばかりではなく見やすい色々な形で是非デザインにもこだわり伝えられるような方法を考えられると良くなると思います。ありがとうございます。

(前田委員)

長期にわたりお疲れ様でした。本日最終日ですが、最終日によりやく場の雰囲気慣れてきました。皆さんで意見を出し合って良い案ができたと思いますが、30年後の良い未来に向かって確実に実現していけるかどうかは、自分のなかでは期待半分、不安半分でした。もう少し積極的にこの案を進めたいと思ったので、これが終わった後もNPOをつくってこのような活動を周知していこうと思いますので、引き続きになりますが、ここにいる方々にご意見等いただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(須藤委員)

長い間ありがとうございます。お世話になりました。なかなかオリジナリティのある意見というのは出せなかったのですが、それはそれなりに皆さんが同じような考え方をしていらっしゃるのだなということを毎回感

じることができました。30年後の未来ですけれども、それこそ私の孫が30歳になるくらいの年ですので、私たちが30年後の未来を考えましたけれども、これは後に続く人たちに実際に活動していただきたいと思いますと思っておりますが、今、非常に心強い、すぐに実行に移していこうという嬉しいご意見も聞くことができましたので、段々年は取っていきますが、何かお手伝いできることがあれば嬉しいなと思います。子どもたちの未来の為ですので、若い人たちがどのようにこの計画というか、未来予想図を実現していけるかということに注目をして、また声も出していききたいと思います。ありがとうございました。

(松尾委員)

皆様ありがとうございました。これは浜松市の未来ビジョンとして作成されたものですが、決して浜松市に限ったものではないと思います。私は教育の場にいますので、自分自身の研究開発活動のなかでも関わる事をしていきますけれども、少しでもこの思いが学生に伝わるように動いていきたいと思っております。よろしくお願ひします。ありがとうございました。

(榊原委員)

皆様お疲れ様でした。30年後の未来ということで、私は会社人間、仕事人間、サラリーマンとして日々目の前の仕事というか課題にぶち当たってやっているところですが、非常に夢を語るというか、そういった必要性というか姿勢が大事なのかなと改めて思いました。この未来デザインの後、会社のなかでは9年後というのをやりました。そうするとこれよりも具体的ところを攻めないといけない、でもやはり難しい。それからその後また3年の経営計画を立てることも、これも遠いようで近い。更には来年の予算を立てなければいけない。段々30年から近づいてきて、現実的などころを攻めないといけないけれども、その先に何があるのかという視点を忘れずに、戦略を立てたり、ターゲットを絞ったりしていくことが大事だと改めて思いました。サラリーマンの私ですが、こういった場に立たせていただいて、非常に勉強になりました。ありがとうございました。

(田中委員)

最初お受けした時に、短期間で30年後まで大丈夫かと思いましたが、でも会議に出ても皆さん協力してくれてエゴ的なことは言わないでここまでできました。行政も年代を変えての選定も良かった。我々があとと思うのは、会議で良いものを決めましたが、それに酔うのではなく、前に進むということで、憲法的なものや条例は難しいとおっしゃいましたが、やはり基本は10年20年変わっても残すようにしていただいて、分かりやすく言うと、大井川鉄道のアプト式のように、後ろに下がらないことが大事だと思っております。短い期間でしたが、皆さんと仲良くやれて私も非常にありがたく思っています。ありがとうございました。

(河原委員)

市民の声のなかにも計画が壮大でなかなかイメージがつかみにくい、とありました。その通りですけれども、この会議で若い方がとても活発にしっかりと主張なさる。それがとても良かったと思っております。これから30年前のことを検証する場合、これから30年後という、これまでの30年よりも格段の差があり、早く進むということで本当に想像ができません。ですから検証と調査をしっかりやっていくことが大切だと思っております。それから、先程言いました、人づくりとか、文化など、なかなか目に見えないものがあります。そのような精神的な土壌が浜松にできていけば、また色々

な素晴らしい人間が現われてくるのかなと思います。本当にありがとうございました。

(酒井委員)

皆さんありがとうございました。30年というと、一世代がごっそり変わるという形で、非常に重たいと思いましたが、こういう網羅的な計画にも私は初めて出させていただいたので、どういった形になるのかなと思いましたが、非常に素晴らしいものができたのではないかと考えています。それから1回の会議で3回は発言したいと思っていたのが達成できて良かったです。事務局の皆さんにお願いがあります。折角ですので何か事ある度にご連絡いただけたらと思います。議会に出される時も、傍聴ができるかどうかは別として、行ってみたいと思いますし、例えば小学校の子どもに話をするときにはこっそり覗かせてもらいたいとも思います。何らかの形でつくった者の責任として眺めていたいと思っています。またこういったメンバーの皆さんと一緒に活動できたことが本当にありがたかったなと思っています。また何かの機会に呼んでいただけたらと思いますのでよろしくお願いします。

(杉山委員)

ありがとうございました。私は学生という立場で参加させていただき、このような錚々たるメンバーの皆さんのなかであんな発言していいのかな、こんな発言していいのかなと色々悩みながら、でも発言する度にいろいろとフォローしていただいて、楽しく会議に参加することができました。またこの会議を通して、私は掛川市の出身ですが、浜松市のことも色々教えていただいて、浜松を好きになることができて良かったです。まだ学生生活が2年ほど残っているので、そのなかで、会議で学んだこととか、まだまだ足りないこととかを沢山勉強する機会が与えられていることを幸運に思っています。これからも頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。

(外山委員)

お疲れ様でした。自分が得意な分野、起業や創業というところを重点的に意見しようかと思っていまして、かたや自分に知識がないところは他の専門家の方々が穴埋めというか自分でも、ああそういう切り口があるんだとか、有益なことを言うなど逆に感心した部分が多かったように思います。冒頭一回目にも言ったのですが、起業とか創業とかは浜松でよく言う「やらまいか」にすごく関わってきていると考えていて、浜松出身者で、ノーベル賞のことで持ち切りでしたけれども、実は楽天球団の立ち上げに携わったのも高校の先輩で浜松出身だったり、先日KDDIから増資を受けてベンチャーとしてやっていくという高校の先輩がいたりして、浜松から出て世界を変えると意気込んでいる人たちと直に触れることがあるので、今は、私は浜松でクリエイティブな仕事をしているだけで大変物珍しく見られていますので、30年後にはそういう人は当たり前になっているはずですので、浜松で地道に自分の持ち場でまた頑張ろうと思います。ありがとうございました。

(西川委員)

一年間ありがとうございました。私は創ると働くについて話をさせていただこうと思っていりましたが、何回か出席できない間に進んでいる部分がありました。自分の思っている以上に良いものができて、何も言えないなと思っています。私の知識を向上させることができて、私にとっては非常に良い会議だったと思います。今後、多分何事もなければ30年間浜松に

いると思いますので、このビジョンに近づけていけるように、何らかの形で参加させていただければ良いと思っています。

(松本委員)

今まで色々なこういう会議に参加させていただきましたけれども、こういう会議は大体おじさんが中心で、学生の方や女性の方皆で一致して色々な意見が出てきてそれをコーディネーターの先生がまとめていくという雰囲気の中で楽しくできましたことを感謝しています。今、日本は人口が減少していくとか、昔のように上り坂ではありません。これは浜松だけでなく日本全体で、ですからこれに類した会議を都市や県、市でやっていると思います。やっているけれども私は浜松市というのは、東京、名古屋、大阪の中心で、交通も便利、それからあらゆる産業があり、そういう多様性を持っているところだと思います。浜松の特色を活かしたやり方でやっていけば、今後、浜松は他と違った歩みができるのではないかと思います。

(村田亜委員)

一年間ありがとうございました。生まれも育ちも祖母の祖母の代から、ずっと浜松に住んでいるので、DNAが浜松市のやらまいか精神に溢れていたのかも知れませんが、あまり今まで浜松のことを考えなかったのも、このデザイン会議に出て初めて浜松市について改めて考えたり、ここで出会った人がきっかけで水窪に足しげく通ったりするようになりました。自分の意識や経験を増やしていただけたと思います。ここで終わりにしては勿体ないので、放課後デザイン会議という形で裏番長を張らせてもらい、おじさま方に可愛がっていただいていますので、会議室ということではなく、地域のカフェでランチケーション、カフェケーションのような格好で市について話し合っ、それを近くで見ていた例えばお母さん方が、「この人たちカッコいい」とか、子どもたちが「こういうことをしている大人がいるんだ」というふうに今後は周りを巻き込んでいけたら良いなと思っています。引き続きよろしく願います。ありがとうございました。

(村田昌委員)

皆様ありがとうございました。私もこの会議に参加するようになって、市の取り組みに興味を持つようになりました。周りにも関心を持っている人たちと出会う機会も多いのですけれど、大きく分けると、興味を持つと言っても、粗を探して文句を言ってやろうという人たちもけっこう沢山います。もう1つは、文句を言うエネルギーがあるなら何かやってみようという人たちも少しだけいて、その人たちはすごく魅力的です。先ほど前田委員がNPOをつくったという話をしていましたけれども、私もそのメンバーの一人で、きっかけになったのがこのデザイン会議に参加したことだと思っています。これから動いて高めるということに貢献したいと思っています。賛助会員も募集していますので、是非傍聴の皆さんもよろしければ、また報道の皆さんも取材に来ていただければと思います。それもこの未来デザイン会議の小さな成果だと思っています。未来デザイン会議のスピリッツを持って取り組んでいきたいと思っています。どうもありがとうございました。

(鈴木市長)

まずは皆さん長期間にわたりましてありがとうございました。特にお忙しいなか、こうして休みを返上して会議に参加いただき、本当に感謝申し上げます。30年という長期スパンの計画はどうかと最初我々も逡巡する部分もありました。しかし日本がいよいよ人口減少という未知

の世界に入っていくなかで30年後という将来を見据えてビジョンをつくっていくのが大事だろうと踏み切りました。その後ご存知の通り増田レポートという衝撃的なレポートが出ました。ほぼ同じ位のスパンで日本の自治体の将来推計が出されました。もう30年後の未来を考えない方がおかしいという空気が日本全体を覆っているということです。ちょっと自慢をさせていただきますと、浜松市というのは結構全国の一步先を行く取り組みをこれまでしてきました。例えば市の会計制度、前は現金出納しかなかった。これでは経営ができないということで民間企業と同じようにきちっとした財務諸表、会計制度を整えました。そうしたら今や全国の自治体にそれを入れろ、会計制度の改革をやれと総務省から指示が出ました。もうやらなくてはいけなくなりました。あるいは浜松も合併して沢山のインフラがあります。これについて中長期的な資産計画を立ててしっかり取り組みを始めました。これが日本ファシリティマネジメント大賞最優秀賞を受賞しましたが、その後ご承知の通りインフラの老朽化したものをどうするかというのが全国的な課題となり、とうとう今年4月、全ての自治体が公共施設等の総合管理計画をつくらなければならなくなりました。今回の30年後を見据えた総合計画も、増田レポートが出てから全国的に30年後の将来を見据えて自治体経営をやっていかなければならない時代になってきました。そこで1つ全国のモデルにして、ついでにはビジョンをつくって、形にしていかなければいけないというのが我々の責任ですので、しっかりと年度毎の計画をつくって、市がどうやっているのかについては、皆さんに作成責任がありますので、是非アンテナを高く、チェックをしていただきまして、色々なご意見をいただければと思います。重ねてこれまでのご支援に熱くお礼を申し上げます、私の感想とさせていただきます。ありがとうございます。

(根本学部長)

委員の皆様、市長さんありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しいたします。

7 閉会

(事務局)

根本学部長、長期間にわたり、進行ありがとうございました。委員の皆様も常に活発なご議論をありがとうございました。事務局を代表いたしまして、厚くお礼申し上げます。これをもちまして、浜松市未来デザイン会議を終了します。ありがとうございました。